

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

2021年2月12日

02-工-B-20-0021_改1

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法	・構成の差異

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・構成の差異 (女川2号機はクラス1管の基本板厚計算方法を作成しないため、まえがきは記載しない。)

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			<p>・既工認評価の差異 （クラス1管の評価対象設備（原子炉冷却材圧力バウンダリ拡大範囲）は、既工認にてクラス2管をクラス1管として評価していることから、基本板厚計算に係る評価は既工認評価結果の確認による評価を実施するため計算方法は作成していない。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
			・構成の差異

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		目次 1. 一般事項…………… 1.1 概要…………… 1.2 適用基準…………… 2. クラス1管の強度計算方法…………… 2.1 計算方針…………… 2.2 計算方法…………… 3. 計算書の構成…………… 3.1 管の応力計算書……………	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>1. 一般事項</p> <p>1.1 概要</p> <p>本計算方法は、発電用原子力設備のうち、クラス1管の応力計算書（以下「計算書」という。）について説明するものである。</p> <p>1.2 適用基準</p> <p>適用基準を以下に示す。</p> <p>(1) 実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則（以下「技術基準規則」という。）</p> <p>(2) 実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則の解釈（以下「技術基準規則解釈」という。）</p> <p>(3) 発電用原子力設備規格（設計・建設規格（2005年版（2007年追補版含む。））J S M E S N C 1 - 2005/2007）（日本機械学会 2007年9月）（以下「設計・建設規格」という。）</p> <p>(4) 発電用原子力設備に関する構造等の技術基準（昭和55年通商産業省告示第501号）（以下「告示第501号」という。）</p> <p>2. クラス1管の強度計算方法</p> <p>2.1 計算方針</p> <p>設計基準対象施設は、それぞれの施設の評価条件での設計・建設規格による評価を実施する。</p> <p>技術基準規則解釈において、技術基準規則第17条に規定の要求に適合する材料及び構造とは、設計・建設規格によることから、クラス1管は、設計・建設規格 PPB-3500による評価を実施する。加えて、施設時に適用された規格が告示第501号の範囲については、告示第501号第46条から第48条までの規定に基づく評価を実施する。</p>	<p>・表現上の差異</p> <p>・施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。）</p> <p>・施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>2.2 計算方法</p> <p>2.2.1 解析による計算</p> <p>応力計算は、三次元多質点系はりモデルによる解析により実施する。配管系の動的解析手法としては、スペクトルモーダル解析法を用いる。なお、解析は解析コード「I S A P」を使用する。評価に用いる解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム(解析) コードの概要」に示す。</p> <p>2.2.1.1 解析モデルの作成</p> <p>配管系の解析モデル作成に当たっては、以下を考慮する。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 配管系は三次元多質点系はりモデルとし、曲げ、せん断、ねじり及び軸力に対する剛性を考慮する。(2) 弁等の偏心質量がある場合には、その影響を評価できるモデル化を行う。また、弁の剛性を考慮したモデル化を行う。(3) 同一モデルに含める範囲は、原則としてアンカ点からアンカ点までとする。(4) 分岐管がある場合には、その影響を考慮できるモデル化を行う。ただし、母管に対して分岐管の径が十分に小さく、分岐管の振動が母管に与える影響が小さい場合にはこの限りではない。(5) 質点は応力が高くなると考えられる点に設定するとともに、代表的な振動モードを十分に表現できるように、適切な間隔で設ける。(6) 配管の支持構造物は、以下の境界条件として扱うことを基本とする。<ol style="list-style-type: none">a. レストレイント：拘束方向の剛性を考慮する。b. スナッパ：拘束方向の剛性を考慮する。c. アンカ：6方向を固定として扱う。d. ガイド：拘束方向及び回転拘束方向の剛性を考慮する。	<p>・表現上の差異</p> <p>・記載の適正化</p> <p>・表現の相違（メーカーによる解析コードの差異）</p> <p>・図書構成及び表現上の差異</p> <p>・表現上の差異</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(7) 配管系の質量は、配管自体の質量（フランジ部含む。）の他に弁等の集中質量、管内流体の質量、付加質量として保温材等の質量を考慮するものとする。</p> <p>2.2.1.2 解析条件 解析において考慮する解析条件を以下に示す。</p> <p>(1) 荷重条件</p> <ul style="list-style-type: none">a. 内圧b. 機械的荷重（自重及びその他の長期的荷重）c. 機械的荷重（逃し弁又は安全弁の吹出し反力及びその他の短期的荷重）d. 熱膨張及び熱による支持点の変位による応力e. 配管肉厚方向の温度こう配及び管軸に沿った構造上不連続部に生じる熱応力	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																								
		<p>2.2.2 計算式</p> <p>2.2.2.1 記号の定義</p> <p>計算式中に説明のない記号の定義は下表のとおりとする。</p> <table border="1" data-bbox="1339 384 1930 954"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B_1, B_2, B_{2b}, B_{2r}</td> <td>-</td> <td>告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次応力の計算に使用するもの）</td> </tr> <tr> <td>$C_1, C_2, C_{2b}, C_{2r}, C_3, C_3'$</td> <td>-</td> <td>告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次+二次応力の計算に使用するもの）</td> </tr> <tr> <td>C_4</td> <td>-</td> <td>フェライト系材料に対し1.1, オーステナイト系材料に対し1.3</td> </tr> <tr> <td>D_o</td> <td>mm</td> <td>管の外径</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>MPa</td> <td>告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数</td> </tr> <tr> <td>E_{ab}</td> <td>MPa</td> <td>構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数の平均値</td> </tr> <tr> <td>$K_1, K_2, K_{2b}, K_{2r}, K_3$</td> <td>-</td> <td>告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（ピーク応力の計算に使用するもの）</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	定義	B_1, B_2, B_{2b}, B_{2r}	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次応力の計算に使用するもの）	$C_1, C_2, C_{2b}, C_{2r}, C_3, C_3'$	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次+二次応力の計算に使用するもの）	C_4	-	フェライト系材料に対し1.1, オーステナイト系材料に対し1.3	D_o	mm	管の外径	E	MPa	告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数	E_{ab}	MPa	構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数の平均値	$K_1, K_2, K_{2b}, K_{2r}, K_3$	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（ピーク応力の計算に使用するもの）	<p>記号の定義については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
記号	単位	定義																									
B_1, B_2, B_{2b}, B_{2r}	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次応力の計算に使用するもの）																									
$C_1, C_2, C_{2b}, C_{2r}, C_3, C_3'$	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（一次+二次応力の計算に使用するもの）																									
C_4	-	フェライト系材料に対し1.1, オーステナイト系材料に対し1.3																									
D_o	mm	管の外径																									
E	MPa	告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数																									
E_{ab}	MPa	構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第11及び設計・建設規格 付録材料図表 Part6 表1に規定する縦弾性係数の平均値																									
$K_1, K_2, K_{2b}, K_{2r}, K_3$	-	告示第501号第48条及び設計・建設規格 PPB-3810に規定する応力係数（ピーク応力の計算に使用するもの）																									

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1330 277 1469 309">記号</th> <th data-bbox="1473 277 1541 309">単位</th> <th data-bbox="1545 277 1939 309">定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1330 320 1469 384">$M_{b,p}$</td> <td data-bbox="1473 320 1541 384">N・mm</td> <td data-bbox="1545 320 1939 384">管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の機械的荷重により生ずるモーメント</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 387 1469 491">$M_{b,r}$</td> <td data-bbox="1473 387 1541 491">N・mm</td> <td data-bbox="1545 387 1939 491">管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重（逃し弁又は安全弁の吹出し反力その他の短期的荷重に限る。）により生ずるモーメント</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 494 1469 847">$M_{b,s}$</td> <td data-bbox="1473 494 1541 847">N・mm</td> <td data-bbox="1545 494 1939 847"> (S_a, S_p)：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱膨張、支持点の変位及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_a')：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の支持点の変位（熱によるものを除く。）及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_p)：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 850 1469 882">M_c</td> <td data-bbox="1473 850 1541 882">N・mm</td> <td data-bbox="1545 850 1939 882">管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1330 885 1469 917">$M_{i,p}$</td> <td data-bbox="1473 885 1541 917">N・mm</td> <td data-bbox="1545 885 1939 917">管の機械的荷重により生ずるモーメント</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	定義	$M_{b,p}$	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の機械的荷重により生ずるモーメント	$M_{b,r}$	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重（逃し弁又は安全弁の吹出し反力その他の短期的荷重に限る。）により生ずるモーメント	$M_{b,s}$	N・mm	(S_a, S_p) ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱膨張、支持点の変位及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_a') ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の支持点の変位（熱によるものを除く。）及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_p) ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント	M_c	N・mm	管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント	$M_{i,p}$	N・mm	管の機械的荷重により生ずるモーメント	<p>記号の定義については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
記号	単位	定義																			
$M_{b,p}$	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の機械的荷重により生ずるモーメント																			
$M_{b,r}$	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重（逃し弁又は安全弁の吹出し反力その他の短期的荷重に限る。）により生ずるモーメント																			
$M_{b,s}$	N・mm	(S_a, S_p) ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱膨張、支持点の変位及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_a') ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の支持点の変位（熱によるものを除く。）及び機械的荷重（自重を除く。）により生ずるモーメント (S_p) ：管台又は突合せ溶接式ティーに接続される分岐管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント																			
M_c	N・mm	管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント																			
$M_{i,p}$	N・mm	管の機械的荷重により生ずるモーメント																			

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M_{1s}</td> <td>N・mm</td> <td> (S_{ts}, S_{tp}): 管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}'): 管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}): 管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント </td> </tr> <tr> <td>M_{1p}</td> <td>N・mm</td> <td>管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重により生ずるモーメント</td> </tr> <tr> <td>M_{1r}</td> <td>N・mm</td> <td> (S_{ts}, S_{tp}): 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}'): 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}): 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント </td> </tr> <tr> <td>n_i</td> <td>-</td> <td>繰返し荷重 i の実際の繰返し回数</td> </tr> <tr> <td>N_i</td> <td>-</td> <td>繰返し荷重 i の許容繰返し回数</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>MPa</td> <td>最高使用圧力</td> </tr> <tr> <td>P_o</td> <td>MPa</td> <td>運転状態 I 及び II (供用状態 A 及び B) において生ずる圧力</td> </tr> <tr> <td>P_o'</td> <td>MPa</td> <td>供用状態における最大圧力</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	定義	M_{1s}	N・mm	(S_{ts}, S_{tp}) : 管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}') : 管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}) : 管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント	M_{1p}	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重により生ずるモーメント	M_{1r}	N・mm	(S_{ts}, S_{tp}) : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}') : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}) : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント	n_i	-	繰返し荷重 i の実際の繰返し回数	N_i	-	繰返し荷重 i の許容繰返し回数	P	MPa	最高使用圧力	P_o	MPa	運転状態 I 及び II (供用状態 A 及び B) において生ずる圧力	P_o'	MPa	供用状態における最大圧力	記号の定義については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。
記号	単位	定義																												
M_{1s}	N・mm	(S_{ts}, S_{tp}) : 管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}') : 管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}) : 管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント																												
M_{1p}	N・mm	管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の機械的荷重により生ずるモーメント																												
M_{1r}	N・mm	(S_{ts}, S_{tp}) : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱膨張, 支持点の変位及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{ts}') : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の支持点の変位 (熱によるものを除く。) 及び機械的荷重 (自重を除く。) により生ずるモーメント (S_{tp}) : 管台又は突合せ溶接式ティーに接続される主管の熱による支持点の変位及び熱膨張により生ずるモーメント																												
n_i	-	繰返し荷重 i の実際の繰返し回数																												
N_i	-	繰返し荷重 i の許容繰返し回数																												
P	MPa	最高使用圧力																												
P_o	MPa	運転状態 I 及び II (供用状態 A 及び B) において生ずる圧力																												
P_o'	MPa	供用状態における最大圧力																												

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>S_c</td> <td>MPa</td> <td>室温における告示第501号別表第6及び設計・建設規格付録材料図表 Part5 表5に規定する材料の許容引張応力</td> </tr> <tr> <td>S_o</td> <td>MPa</td> <td>熱膨張応力</td> </tr> <tr> <td>S_a</td> <td>MPa</td> <td>繰返しピーク応力強さ（告示第501号第46条第5項及び設計・建設規格 PPB-3533による。）</td> </tr> <tr> <td>S_m</td> <td>MPa</td> <td>告示第501号別表第2及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表1に規定する材料の設計応力強さ</td> </tr> <tr> <td>S_n</td> <td>MPa</td> <td>一次+二次応力</td> </tr> <tr> <td>S_n'</td> <td>MPa</td> <td>一次+二次応力（熱によるものを除く。）</td> </tr> <tr> <td>S_p</td> <td>MPa</td> <td>ピーク応力</td> </tr> <tr> <td>$S_{p,m}$</td> <td>MPa</td> <td>一次応力</td> </tr> <tr> <td>S_r</td> <td>MPa</td> <td>告示第501号別表第9及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に規定する材料の設計降伏点</td> </tr> <tr> <td>t</td> <td>mm</td> <td>管の厚さ</td> </tr> <tr> <td>T_a, T_b</td> <td>℃</td> <td>構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側における次の計算式により計算した範囲l_a, l_b内の平均温度 $l_a = \sqrt{(d_a t_a)}, l_b = \sqrt{(d_b t_b)}$ d_a及びd_b：構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側における管の内径(mm) t_a及びt_b：l_a及びl_bの範囲内における管の平均厚さ(mm)</td> </tr> <tr> <td>ΔT</td> <td>℃</td> <td>温度差の変動範囲</td> </tr> <tr> <td>ΔT_1</td> <td>℃</td> <td>線形化した厚さ方向の温度分布における管の内外面温度差</td> </tr> <tr> <td>ΔT_2</td> <td>℃</td> <td>管の内面又は外面において生ずる温度とそれに対応する線形化した温度との差のうちいずれか大きい方の温度（負の場合は0とする。）</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	定義	S_c	MPa	室温における告示第501号別表第6及び設計・建設規格付録材料図表 Part5 表5に規定する材料の許容引張応力	S_o	MPa	熱膨張応力	S_a	MPa	繰返しピーク応力強さ（告示第501号第46条第5項及び設計・建設規格 PPB-3533による。）	S_m	MPa	告示第501号別表第2及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表1に規定する材料の設計応力強さ	S_n	MPa	一次+二次応力	S_n'	MPa	一次+二次応力（熱によるものを除く。）	S_p	MPa	ピーク応力	$S_{p,m}$	MPa	一次応力	S_r	MPa	告示第501号別表第9及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に規定する材料の設計降伏点	t	mm	管の厚さ	T_a, T_b	℃	構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側における次の計算式により計算した範囲 l_a, l_b 内の平均温度 $l_a = \sqrt{(d_a t_a)}, l_b = \sqrt{(d_b t_b)}$ d_a 及び d_b ：構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側における管の内径(mm) t_a 及び t_b ： l_a 及び l_b の範囲内における管の平均厚さ(mm)	ΔT	℃	温度差の変動範囲	ΔT_1	℃	線形化した厚さ方向の温度分布における管の内外面温度差	ΔT_2	℃	管の内面又は外面において生ずる温度とそれに対応する線形化した温度との差のうちいずれか大きい方の温度（負の場合は0とする。）	<p>記号の定義については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
記号	単位	定義																																														
S_c	MPa	室温における告示第501号別表第6及び設計・建設規格付録材料図表 Part5 表5に規定する材料の許容引張応力																																														
S_o	MPa	熱膨張応力																																														
S_a	MPa	繰返しピーク応力強さ（告示第501号第46条第5項及び設計・建設規格 PPB-3533による。）																																														
S_m	MPa	告示第501号別表第2及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表1に規定する材料の設計応力強さ																																														
S_n	MPa	一次+二次応力																																														
S_n'	MPa	一次+二次応力（熱によるものを除く。）																																														
S_p	MPa	ピーク応力																																														
$S_{p,m}$	MPa	一次応力																																														
S_r	MPa	告示第501号別表第9及び設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表8に規定する材料の設計降伏点																																														
t	mm	管の厚さ																																														
T_a, T_b	℃	構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点又は材質を異にする点を境とするそれぞれの側における次の計算式により計算した範囲 l_a, l_b 内の平均温度 $l_a = \sqrt{(d_a t_a)}, l_b = \sqrt{(d_b t_b)}$ d_a 及び d_b ：構造上の不連続部のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側における管の内径(mm) t_a 及び t_b ： l_a 及び l_b の範囲内における管の平均厚さ(mm)																																														
ΔT	℃	温度差の変動範囲																																														
ΔT_1	℃	線形化した厚さ方向の温度分布における管の内外面温度差																																														
ΔT_2	℃	管の内面又は外面において生ずる温度とそれに対応する線形化した温度との差のうちいずれか大きい方の温度（負の場合は0とする。）																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 []：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>記号</th> <th>単位</th> <th>定義</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Z, Z_t</td> <td>mm^2</td> <td>管の断面係数</td> </tr> <tr> <td>Z_b</td> <td>mm^2</td> <td>管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される分岐管の断面係数</td> </tr> <tr> <td>Z_r</td> <td>mm^2</td> <td>管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される主管の断面係数</td> </tr> <tr> <td>α</td> <td>$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$</td> <td>室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数</td> </tr> <tr> <td>α_a, α_b</td> <td>$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$</td> <td>構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数</td> </tr> <tr> <td>ε_e</td> <td>—</td> <td>S_pを求めたピーク応力強さのサイクルに対して、弾性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_e = \bar{\sigma} / E$ $\bar{\sigma}$：弾性解析によるミーゼス相当応力</td> </tr> <tr> <td>ε_{ep}</td> <td>—</td> <td>S_pを求めたピーク応力強さのサイクルに対して、材料の応力-ひずみ関係として、降伏応力をS_mの1.5倍の値とした弾完全塑性体とした弾塑性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_{ep} = \bar{\sigma} / E + \bar{\varepsilon}^p$ $\bar{\sigma}$：弾塑性解析によるミーゼス相当応力 $\bar{\varepsilon}^p$：弾塑性解析によるミーゼス相当塑性ひずみ</td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td>—</td> <td>運転状態Ⅰ及び運転状態Ⅱ若しくは設計条件相当の応力評価を行う運転状態</td> </tr> <tr> <td>(A, B)</td> <td>—</td> <td>供用状態A及び供用状態B若しくは設計条件相当の応力評価を行う供用状態</td> </tr> </tbody> </table>	記号	単位	定義	Z, Z_t	mm^2	管の断面係数	Z_b	mm^2	管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される分岐管の断面係数	Z_r	mm^2	管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される主管の断面係数	α	$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$	室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数	α_a, α_b	$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$	構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数	ε_e	—	S_p を求めたピーク応力強さのサイクルに対して、弾性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_e = \bar{\sigma} / E$ $\bar{\sigma}$ ：弾性解析によるミーゼス相当応力	ε_{ep}	—	S_p を求めたピーク応力強さのサイクルに対して、材料の応力-ひずみ関係として、降伏応力を S_m の1.5倍の値とした弾完全塑性体とした弾塑性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_{ep} = \bar{\sigma} / E + \bar{\varepsilon}^p$ $\bar{\sigma}$ ：弾塑性解析によるミーゼス相当応力 $\bar{\varepsilon}^p$ ：弾塑性解析によるミーゼス相当塑性ひずみ	(I, II)	—	運転状態Ⅰ及び運転状態Ⅱ若しくは設計条件相当の応力評価を行う運転状態	(A, B)	—	供用状態A及び供用状態B若しくは設計条件相当の応力評価を行う供用状態	<p>記号の定義については、プラントユニークであるため、差分の抽出は実施しない。</p>
記号	単位	定義																															
Z, Z_t	mm^2	管の断面係数																															
Z_b	mm^2	管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される分岐管の断面係数																															
Z_r	mm^2	管台又は突合せ溶接式テーパーに接続される主管の断面係数																															
α	$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$	室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数																															
α_a, α_b	$\text{mm}/\text{mm}^\circ\text{C}$	構造上の不連続部分のうち応力集中度が最も高いと推定した点を境とするそれぞれの側の室温における告示第501号別表第12及び設計・建設規格付録材料図表 Part6 表2に規定する熱膨張係数																															
ε_e	—	S_p を求めたピーク応力強さのサイクルに対して、弾性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_e = \bar{\sigma} / E$ $\bar{\sigma}$ ：弾性解析によるミーゼス相当応力																															
ε_{ep}	—	S_p を求めたピーク応力強さのサイクルに対して、材料の応力-ひずみ関係として、降伏応力を S_m の1.5倍の値とした弾完全塑性体とした弾塑性解析により計算したときのひずみであり、次の計算式により計算した値 $\varepsilon_{ep} = \bar{\sigma} / E + \bar{\varepsilon}^p$ $\bar{\sigma}$ ：弾塑性解析によるミーゼス相当応力 $\bar{\varepsilon}^p$ ：弾塑性解析によるミーゼス相当塑性ひずみ																															
(I, II)	—	運転状態Ⅰ及び運転状態Ⅱ若しくは設計条件相当の応力評価を行う運転状態																															
(A, B)	—	供用状態A及び供用状態B若しくは設計条件相当の応力評価を行う供用状態																															

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>2.2.2.2 応力計算</p> <p>(1) 告示第501号第46条から第48条による評価</p> <p>a. 一次応力（告示第501号第46条第1号イ及びロ）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(1) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq 1.5 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(1) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq 1.5 \cdot S_m$ <p>b. 一次応力（告示第501号第46条第2号）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(2) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq 2.25 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(2) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq 2.25 \cdot S_m$ <p>c. 一次応力（告示第501号第46条第3号）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(3) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq 3 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(3) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq 3 \cdot S_m$ <p>d. 一次+二次応力（告示第501号第46条第4号イ及びロ）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_n = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_n = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{is} / Z_i + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$	<p>・ 施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>e. ピーク応力（告示第501号第46条第5号イ及びロ）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式ティー</p> $S_p = K_1 \cdot C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + K_2 \cdot C_2 \cdot M_b \cdot Z_b + K_2 \cdot C_2 \cdot M_r \cdot Z_r + K_3 \cdot E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + K_3 \cdot C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_2 / 0.7$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_p = K_1 \cdot C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + K_2 \cdot C_2 \cdot M_i \cdot Z_i + K_3 \cdot E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + K_3 \cdot C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_2 / 0.7$ <p>f. 繰返しピーク応力強さ（告示第501号第46条第5号）</p> $S_e = S_p / 2$ <p>g. 許容繰返し回数（告示第501号第46条第5号）</p> <p>告示第501号 別図第1又は別図第2を用いて、繰返しピーク応力強さに対応する許容繰返し回数N_iを算出する。</p> <p>h. 疲労累積係数（告示第501号第46条第5号）</p> $\Sigma(n_i / N_i) \leq 1.0$ <p>i. 簡易弾塑性解析（告示第501号第47条）</p> <p>(a) 告示第501号 別表第2に定める当該部分の材料の最小降伏点と最小引張強さとの比が0.8以下であること。（告示第501号第47条第1号）</p> <p>(b) 運転状態Ⅰ及びⅡにおいて生ずる当該部分の温度は、次の値を超えないこと。（告示第501号第47条第2号）</p> <p>イ. 低合金鋼、マルテンサイト系ステンレス鋼及び炭素鋼 375℃</p> <p>ロ. オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金 425℃</p>	<p>・ 施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(c) 一次+二次応力(熱によるものを除く。)(告示第501号第47条第3号)</p> <p>イ. 管台及び突合せ溶接式ティー</p> $S_n' = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{bs} / Z_b + C_2 \cdot M_{rs} / Z_r + C_3' \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>ロ. イ.以外の管</p> $S_n' = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{is} / Z_i + C_3' \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>(d) 運転状態I及びIIにおける告示第501号第46条第5号の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとした値は、告示第501号 別図第1又は別図第2における10回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。(告示第501号第47条第4号)</p> <p>(e) 運転状態I及びIIにおける次の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとし、告示第501号 別図第1又は別図第2において、これに対応する許容繰返し回数が実際の繰返し回数以上であること。この場合において、実際の繰返し回数が2種類以上ある場合は、疲労累積係数が1以下でなければならない。(告示第501号第47条第5号)</p> <p>イ. $S_n < 3 \cdot S_m$の場合</p> $S_e = S_p / 2$ <p>ロ. $3 \cdot S_m \leq S_n \leq m \cdot 3 \cdot S_m$の場合</p> $S_e = \text{MAX} [K_e \cdot S_p / 2, \{ S_p + A_0 \cdot S_n \cdot (S_p / 3 \cdot S_m - 1) \} / 2]$ $K_e = 1 + (1 - n) \cdot (S_n / 3 \cdot S_m - 1) / \{ n \cdot (m - 1) \}$	<p>・ 施設時の適用規格の差異(女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。)</p>

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																								
		<p>m, n, A₀ : 下表に掲げる材料の種類に応じ、それぞれの同表に掲げる値</p> <table border="1" data-bbox="1330 320 1939 512"><thead><tr><th>材料の種類</th><th>m</th><th>n</th><th>A₀</th></tr></thead><tbody><tr><td>低合金鋼</td><td>2.0</td><td>0.2</td><td>1.0</td></tr><tr><td>マルテンサイト系ステンレス鋼</td><td>2.0</td><td>0.2</td><td>1.0</td></tr><tr><td>炭素鋼</td><td>3.0</td><td>0.2</td><td>0.66</td></tr><tr><td>オーステナイト系ステンレス鋼</td><td>1.7</td><td>0.3</td><td>0.7</td></tr><tr><td>高ニッケル合金</td><td>1.7</td><td>0.3</td><td>0.7</td></tr></tbody></table> <p>ハ. $m \cdot 3 \cdot S_m < S_n$ の場合 $S_e = S_p / (2 \cdot n)$</p> <p>(f) 熱膨張応力（告示第501号第47条第6号）</p> <p>イ. 管台及び突合せ溶接式ティー $S_e = C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r \leq 3 \cdot S_m$</p> <p>ロ. イ以外の管 $S_e = C_2 \cdot M_{is} / Z_i \leq 3 \cdot S_m$</p>	材料の種類	m	n	A ₀	低合金鋼	2.0	0.2	1.0	マルテンサイト系ステンレス鋼	2.0	0.2	1.0	炭素鋼	3.0	0.2	0.66	オーステナイト系ステンレス鋼	1.7	0.3	0.7	高ニッケル合金	1.7	0.3	0.7	<p>・ 施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。）</p>
材料の種類	m	n	A ₀																								
低合金鋼	2.0	0.2	1.0																								
マルテンサイト系ステンレス鋼	2.0	0.2	1.0																								
炭素鋼	3.0	0.2	0.66																								
オーステナイト系ステンレス鋼	1.7	0.3	0.7																								
高ニッケル合金	1.7	0.3	0.7																								

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(2) 設計・建設規格 PPB-3500 による評価</p> <p>a. 一次応力（設計・建設規格 PPB-3520）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(1) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq 1.5 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(1) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq 1.5 \cdot S_m$ <p>b. 一次応力（設計・建設規格 PPB-3552）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(2) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq \text{Min} (2.25 \cdot S_m, 1.8 \cdot S_y)$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(2) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq \text{Min} (2.25 \cdot S_m, 1.8 \cdot S_y)$ <p>c. 一次応力（設計・建設規格 PPB-3562）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_{pr m}(3) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_{2b} \cdot M_{bp} / Z_b + B_{2r} \cdot M_{rp} / Z_r \leq \text{Min} (3 \cdot S_m, 2 \cdot S_y)$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_{pr m}(3) = B_1 \cdot P \cdot D_0 / (2 \cdot t) + B_2 \cdot M_{ip} / Z_i \leq \text{Min} (3 \cdot S_m, 2 \cdot S_y)$ <p>d. 一次+二次応力（設計・建設規格 PPB-3531）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式テーパー</p> $S_n = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r + C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_n = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{is} / Z_i + C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$	<p>・構成及び表現上の差異</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>e. ピーク応力（設計・建設規格 PPB-3532）</p> <p>(a) 管台及び突合せ溶接式ティー</p> $S_p = K_1 \cdot C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + K_{2b} \cdot C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + K_{2r} \cdot C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r + K_3 \cdot E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + K_3 \cdot C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_2 / 0.7$ <p>(b) (a)以外の管</p> $S_p = K_1 \cdot C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + K_2 \cdot C_2 \cdot M_{is} / Z_i + K_3 \cdot E \cdot \alpha \cdot \Delta T_1 / 1.4 + K_3 \cdot C_3 \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b + E \cdot \alpha \cdot \Delta T_2 / 0.7$ <p>f. 繰返しピーク応力強さ（設計・建設規格 PPB-3533）</p> $S_e = S_p / 2$ <p>g. 許容繰返し回数（設計・建設規格 PPB-3534）</p> <p>設計・建設規格 添付4-2 3.1及び3.2を用いて、設計・建設規格 PPB-3533に従って算出された繰返しピーク応力強さに対応する許容繰返し回数N_iを算出する。</p> <p>h. 疲労累積係数（設計・建設規格 PPB-3535）</p> $\Sigma (n_i / N_i) \leq 1.0$ <p>i. 簡易弾塑性解析（設計・建設規格 PPB-3536）</p> <p>(a) 設計・建設規格 付録材料図表 Part5 表1に定める当該部分の材料の最小降伏点と最小引張強さとの比が0.8以下であること。</p> <p>(b) 供用状態A及びBにおいて生ずる当該部分の温度は、次の値を超えないこと。</p> <p>イ. 低合金鋼, マルテンサイト系ステンレス鋼及び炭素鋼 370℃</p> <p>ロ. オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金 430℃</p>	<p>・表現上の差異</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>(c) 一次+二次応力(熱によるものを除く。)</p> <p>イ. 管台及び突合せ溶接式ティー</p> $S_n' = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r + C_3' \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>ロ. イ.以外の管</p> $S_n' = C_1 \cdot P_0 \cdot D_0 / (2 \cdot t) + C_2 \cdot M_{is} / Z_i + C_3' \cdot E_{ab} \cdot \alpha_a \cdot T_a - \alpha_b \cdot T_b \leq 3 \cdot S_m$ <p>(d) 供用状態A及びBにおける設計・建設規格 PPB-3533 の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとした値は、設計・建設規格 添付4-2, 3.1及び3.2における10回の許容繰返し回数に対応する許容繰返しピーク応力強さの値を超えないこと。</p> <p>(e) 供用状態A及びBにおける次の計算式により計算した応力を繰返しピーク応力強さとし、設計・建設規格 添付4-2, 3.1及び3.2において、これに対応する許容繰返し回数が実際の繰返し回数以上であること。この場合において、実際の繰返し回数が2種類以上ある場合は、疲労累積係数が1以下でなければならない。</p> $S_e = K_e \cdot S_p / 2$ <p>K_e : 次の計算式により計算した値</p> <p>イ. $S_n < 3 \cdot S_m$の場合</p> $K_e = 1$ <p>ロ. $S_n \geq 3 \cdot S_m$の場合</p> <p>(イ) $K < B_0$の場合</p> <p>i. $S_n / (3 \cdot S_m) < [(q + A_0 / K - 1) - \sqrt{((q + A_0 / K - 1)^2 - 4 \cdot A_0 \cdot (q - 1))}] / (2 \cdot A_0)$の場合</p> $K_e = K_e^* = 1 + A_0 \cdot (S_n / (3 \cdot S_m) - 1 / K)$ <p>ii. $S_n / (3 \cdot S_m) \geq [(q + A_0 / K - 1) - \sqrt{((q + A_0 / K - 1)^2 - 4 \cdot A_0 \cdot (q - 1))}] / (2 \cdot A_0)$の場合</p> $K_e = K_e^* = 1 + (q - 1) \cdot (1 - 3 \cdot S_m / S_n)$	<p>・ 表現上の差異</p> <p>・ 表現上の差異</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																		
		<p>(ロ) $K \geq B_0$ の場合</p> <p>i. $S_n / (3 \cdot S_m) < [(q-1) - \sqrt{\{A_0 \cdot (1-1/K) \cdot (q-1)\}}] / a$ の場合 $K_e = K_e^{**} = a \cdot S_n / (3 \cdot S_m) + A_0 \cdot (1-1/K) + 1 - a$</p> <p>ii. $S_n / (3 \cdot S_m) \geq [(q-1) - \sqrt{\{A_0 \cdot (1-1/K) \cdot (q-1)\}}] / a$ の場合 $K_e = K_e' = 1 + (q-1) \cdot (1-3 \cdot S_m / S_n)$</p> <p>ここで、 $K = S_p / S_n$ $a = A_0 \cdot (1-1/K) + (q-1) - 2 \cdot \sqrt{\{A_0 \cdot (1-1/K) \cdot (q-1)\}}$</p> <p>$q, A_0, B_0$: 下表に掲げる材料の種類に応じ、それぞれの同表に掲げる値</p> <table border="1" data-bbox="1339 592 1930 770"> <thead> <tr> <th>材料の種類</th> <th>q</th> <th>A₀</th> <th>B₀</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低合金鋼</td> <td>3.1</td> <td>1.0</td> <td>1.25</td> </tr> <tr> <td>マルテンサイト系ステンレス鋼</td> <td>3.1</td> <td>1.0</td> <td>1.25</td> </tr> <tr> <td>炭素鋼</td> <td>3.1</td> <td>0.66</td> <td>2.59</td> </tr> <tr> <td>オーステナイト系ステンレス鋼</td> <td>3.1</td> <td>0.7</td> <td>2.15</td> </tr> <tr> <td>高ニッケル合金</td> <td>3.1</td> <td>0.7</td> <td>2.15</td> </tr> </tbody> </table> <p>$S_n \geq 3 \cdot S_m$ の場合、2.2.2.2(i)(e)ロ、に関わらず、次の計算式により計算した値を用いても良い。</p> $K_e = \varepsilon_{ep} / \varepsilon_e$ <p>(f) 熱膨張応力</p> <p>イ. 管台及び突合せ溶接式ティー $S_e = C_{2b} \cdot M_{bs} / Z_b + C_{2r} \cdot M_{rs} / Z_r \leq 3 \cdot S_m$</p> <p>ロ. (イ)以外の管 $S_e = C_2 \cdot M_{is} / Z_i \leq 3 \cdot S_m$</p> <p>(g) 管の内外面の温度差の変動範囲 $\Delta T \leq 1.4 \cdot y \cdot S_y / (E \cdot \alpha) \cdot C_4$ y : x の値に応じ下表に示す値</p> <table border="1" data-bbox="1355 1270 1930 1331"> <tbody> <tr> <td>x</td> <td>0.3</td> <td>0.5</td> <td>0.7</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>y</td> <td>3.33</td> <td>2.00</td> <td>1.20</td> <td>0.80</td> </tr> </tbody> </table> <p>(備考) 表中の値の中間の値は、比例法によって計算する。</p> <p>x : 次式により計算した値 $x = P_0' \cdot D_0 / (2 \cdot t) \cdot 1 / S_y$</p>	材料の種類	q	A ₀	B ₀	低合金鋼	3.1	1.0	1.25	マルテンサイト系ステンレス鋼	3.1	1.0	1.25	炭素鋼	3.1	0.66	2.59	オーステナイト系ステンレス鋼	3.1	0.7	2.15	高ニッケル合金	3.1	0.7	2.15	x	0.3	0.5	0.7	0.8	y	3.33	2.00	1.20	0.80	<p>・ 表現上の差異</p>
材料の種類	q	A ₀	B ₀																																		
低合金鋼	3.1	1.0	1.25																																		
マルテンサイト系ステンレス鋼	3.1	1.0	1.25																																		
炭素鋼	3.1	0.66	2.59																																		
オーステナイト系ステンレス鋼	3.1	0.7	2.15																																		
高ニッケル合金	3.1	0.7	2.15																																		
x	0.3	0.5	0.7	0.8																																	
y	3.33	2.00	1.20	0.80																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																						
		<p>2.2.3 荷重の組合せ及び許容応力 計算における荷重の組合せ及び許容応力を以下に示す。</p> <p>表 2-1 荷重の組合せ</p> <table border="1" data-bbox="1332 379 1933 579"> <thead> <tr> <th>管クラス</th> <th>設備</th> <th>荷重の組合せ</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">クラス1管</td> <td rowspan="4">原子炉冷却材 圧力バウンダリ</td> <td>P+M+D</td> <td>設計条件</td> </tr> <tr> <td>P+M+T+O</td> <td>運転状態Ⅰ、Ⅱ 供用状態A、B</td> </tr> <tr> <td>P+M+D</td> <td>運転状態Ⅲ 供用状態C</td> </tr> <tr> <td>P+M+D</td> <td>運転状態Ⅳ 供用状態D</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2-1 中の記号 P：内圧による荷重 M：機械荷重（自重除く。） D：配管の自重による荷重 T：配管の熱膨張荷重（支持点の熱膨張変位を含む。） O：過渡熱による荷重</p> <p>表 2-2 許容応力（告示第501号第46条から第48条）</p> <table border="1" data-bbox="1332 855 1933 1091"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>一次応力 (曲げ応力を含む。)</th> <th>一次+二次 応力</th> <th>一次+二次 +ピーク応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>$1.5 \cdot S_m$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>運転状態 Ⅰ、Ⅱ</td> <td>—</td> <td>$3 \cdot S_m$</td> <td>疲労累積係数の和が1.0 以下であること。</td> </tr> <tr> <td>運転状態Ⅲ</td> <td>$2.25 \cdot S_m$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>運転状態Ⅳ</td> <td>$3 \cdot S_m$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>表 2-3 許容応力（設計・建設規格 PPB-3500）</p> <table border="1" data-bbox="1332 1169 1933 1396"> <thead> <tr> <th>状態</th> <th>一次応力 (曲げ応力を含む。)</th> <th>一次+二次 応力</th> <th>一次+二次 +ピーク応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設計条件</td> <td>$1.5 \cdot S_m$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>供用状態 A、B</td> <td>—</td> <td>$3 \cdot S_m$</td> <td>疲労累積係数の和が1.0 以下であること。</td> </tr> <tr> <td>供用状態C</td> <td>$\text{Min}(2.25 \cdot S_m, 1.8 \cdot S_p)$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>供用状態D</td> <td>$\text{Min}(3 \cdot S_m, 2 \cdot S_p)$</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	管クラス	設備	荷重の組合せ	状態	クラス1管	原子炉冷却材 圧力バウンダリ	P+M+D	設計条件	P+M+T+O	運転状態Ⅰ、Ⅱ 供用状態A、B	P+M+D	運転状態Ⅲ 供用状態C	P+M+D	運転状態Ⅳ 供用状態D	状態	一次応力 (曲げ応力を含む。)	一次+二次 応力	一次+二次 +ピーク応力	設計条件	$1.5 \cdot S_m$	—	—	運転状態 Ⅰ、Ⅱ	—	$3 \cdot S_m$	疲労累積係数の和が1.0 以下であること。	運転状態Ⅲ	$2.25 \cdot S_m$	—	—	運転状態Ⅳ	$3 \cdot S_m$	—	—	状態	一次応力 (曲げ応力を含む。)	一次+二次 応力	一次+二次 +ピーク応力	設計条件	$1.5 \cdot S_m$	—	—	供用状態 A、B	—	$3 \cdot S_m$	疲労累積係数の和が1.0 以下であること。	供用状態C	$\text{Min}(2.25 \cdot S_m, 1.8 \cdot S_p)$	—	—	供用状態D	$\text{Min}(3 \cdot S_m, 2 \cdot S_p)$	—	—	<p>・表現上の差異 (女川2号機では荷重の組合せ及び許容応力に対応する状態として、設計・建設規格で評価する場合は供用状態、告示で評価する場合は運転状態を用いる。)</p> <p>・施設時の適用規格の差異（女川2号機は施設時の適用規格として昭和55年告示第501号を適用しており、今回の評価にも用いる。)</p> <p>・構成及び表現上の差異</p>
管クラス	設備	荷重の組合せ	状態																																																						
クラス1管	原子炉冷却材 圧力バウンダリ	P+M+D	設計条件																																																						
		P+M+T+O	運転状態Ⅰ、Ⅱ 供用状態A、B																																																						
		P+M+D	運転状態Ⅲ 供用状態C																																																						
		P+M+D	運転状態Ⅳ 供用状態D																																																						
状態	一次応力 (曲げ応力を含む。)	一次+二次 応力	一次+二次 +ピーク応力																																																						
設計条件	$1.5 \cdot S_m$	—	—																																																						
運転状態 Ⅰ、Ⅱ	—	$3 \cdot S_m$	疲労累積係数の和が1.0 以下であること。																																																						
運転状態Ⅲ	$2.25 \cdot S_m$	—	—																																																						
運転状態Ⅳ	$3 \cdot S_m$	—	—																																																						
状態	一次応力 (曲げ応力を含む。)	一次+二次 応力	一次+二次 +ピーク応力																																																						
設計条件	$1.5 \cdot S_m$	—	—																																																						
供用状態 A、B	—	$3 \cdot S_m$	疲労累積係数の和が1.0 以下であること。																																																						
供用状態C	$\text{Min}(2.25 \cdot S_m, 1.8 \cdot S_p)$	—	—																																																						
供用状態D	$\text{Min}(3 \cdot S_m, 2 \cdot S_p)$	—	—																																																						

本資料のうち枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																														
		<p>2.2.4 計算精度と桁処理方法 計算精度は6桁以上を確保する。表示する数値の桁処理方法は表2-4に示すとおりである。</p> <p>表2-4 数値の桁処理方法</p> <table border="1" data-bbox="1332 411 1930 877"><thead><tr><th>数値の種類</th><th>単位</th><th>処理桁</th><th>処理方法</th><th>表示桁</th></tr></thead><tbody><tr><td>圧力*1</td><td>MPa</td><td>-</td><td>-</td><td>小数点以下第2位*2</td></tr><tr><td rowspan="3">温度</td><td>下記以外の温度</td><td>℃</td><td>-</td><td>-</td><td>整数位</td></tr><tr><td>過渡変化温度差</td><td>℃</td><td>小数点以下第1位</td><td>切上げ</td><td>整数位</td></tr><tr><td>許容温度差</td><td>℃</td><td>小数点以下第1位</td><td>切捨て</td><td>整数位</td></tr><tr><td rowspan="3">長さ</td><td>下記以外の長さ</td><td>mm</td><td>-</td><td>-</td><td>小数点以下第1位</td></tr><tr><td>移動量</td><td>mm</td><td>小数点以下第2位</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第1位</td></tr><tr><td>鳥獣図記載</td><td>mm</td><td>小数点以下第1位</td><td>四捨五入</td><td>整数位</td></tr><tr><td>質量</td><td>kg</td><td>小数点以下第1位</td><td>四捨五入</td><td>整数位</td></tr><tr><td>ばね定数</td><td>N/mm</td><td>有効桁数4桁</td><td>四捨五入</td><td>有効桁数3桁</td></tr><tr><td>回転ばね定数</td><td>N・mm/rad</td><td>有効桁数4桁</td><td>四捨五入</td><td>有効桁数3桁</td></tr><tr><td>方向余弦</td><td>-</td><td>小数点以下第5位</td><td>四捨五入</td><td>小数点以下第4位</td></tr><tr><td rowspan="2">応力</td><td>算出応力</td><td>MPa</td><td>小数点以下第1位</td><td>切上げ</td><td>整数位</td></tr><tr><td>許容応力*3</td><td>MPa</td><td>小数点以下第1位</td><td>切捨て</td><td>整数位</td></tr><tr><td>疲労累積係数</td><td>-</td><td>小数点以下第5位</td><td>切上げ</td><td>小数点以下第4位</td></tr></tbody></table> <p>注記 *1：必要に応じてkPaを使用する。また、静水頭は「静水頭」と表示する。 *2：必要に応じて小数点以下第3位又は第4位を用いる。 *3：設計・建設規格 付録材料図表に記載された温度の中間における許容応力は、比例法により補間した値の小数点以下第1位を切り捨て、整数位までの値とする。また、告示別表に記載された許容応力は、各温度の値をSI単位に換算し、設計・建設規格と同様の換算と桁処理を行う。</p> <p>3. 計算書の構成 3.1 管の応力計算書 (1) 概要 本計算方法に基づき、管の応力計算を実施した結果を示す旨を記載する。 また、評価結果の記載方法は以下とする旨を記載する。</p>	数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁	圧力*1	MPa	-	-	小数点以下第2位*2	温度	下記以外の温度	℃	-	-	整数位	過渡変化温度差	℃	小数点以下第1位	切上げ	整数位	許容温度差	℃	小数点以下第1位	切捨て	整数位	長さ	下記以外の長さ	mm	-	-	小数点以下第1位	移動量	mm	小数点以下第2位	四捨五入	小数点以下第1位	鳥獣図記載	mm	小数点以下第1位	四捨五入	整数位	質量	kg	小数点以下第1位	四捨五入	整数位	ばね定数	N/mm	有効桁数4桁	四捨五入	有効桁数3桁	回転ばね定数	N・mm/rad	有効桁数4桁	四捨五入	有効桁数3桁	方向余弦	-	小数点以下第5位	四捨五入	小数点以下第4位	応力	算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位	許容応力*3	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位	疲労累積係数	-	小数点以下第5位	切上げ	小数点以下第4位	<ul style="list-style-type: none">・構成の差異・構成の差異・数値の丸め方(数値の種類)の差異(女川2号機では、クラス1管の強度計算書の記載内容を参考に左記の記載とする。また、告示第501号にて評価する場合の注記を追記。)
数値の種類	単位	処理桁	処理方法	表示桁																																																																													
圧力*1	MPa	-	-	小数点以下第2位*2																																																																													
温度	下記以外の温度	℃	-	-	整数位																																																																												
	過渡変化温度差	℃	小数点以下第1位	切上げ	整数位																																																																												
	許容温度差	℃	小数点以下第1位	切捨て	整数位																																																																												
長さ	下記以外の長さ	mm	-	-	小数点以下第1位																																																																												
	移動量	mm	小数点以下第2位	四捨五入	小数点以下第1位																																																																												
	鳥獣図記載	mm	小数点以下第1位	四捨五入	整数位																																																																												
質量	kg	小数点以下第1位	四捨五入	整数位																																																																													
ばね定数	N/mm	有効桁数4桁	四捨五入	有効桁数3桁																																																																													
回転ばね定数	N・mm/rad	有効桁数4桁	四捨五入	有効桁数3桁																																																																													
方向余弦	-	小数点以下第5位	四捨五入	小数点以下第4位																																																																													
応力	算出応力	MPa	小数点以下第1位	切上げ	整数位																																																																												
	許容応力*3	MPa	小数点以下第1位	切捨て	整数位																																																																												
疲労累積係数	-	小数点以下第5位	切上げ	小数点以下第4位																																																																													

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考
		<p>a. 管</p> <p>工事計画記載範囲の管のうち、各応力区分における最大応力評価点の評価結果を解析モデル単位に記載する。また、各応力区分における最大応力評価点の許容値/発生値(以下「裕度」という。)が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。各応力区分における代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果についても記載する。</p> <p>(2) 概略系統図及び鳥瞰図</p> <p>a. 概略系統図</p> <p>工事計画記載範囲の管を含む概略系統図を添付する。ただし、工事計画記載範囲のすべてについて既工認における評価結果の確認による評価を実施した系統については、既工認の計算書番号等を記載のうえ、添付を省略する。</p> <p>b. 鳥瞰図</p> <p>工事計画記載範囲の管のうち評価結果記載の解析モデル図を添付する。ただし、以下に該当する場合は、その旨を記載のうえ、添付を省略する。</p> <p>(a) 既工認における評価結果の確認による評価を実施した範囲</p> <p>既工認の計算書番号等を記載の上、添付を省略する。</p> <p>(3) 計算条件</p> <p>本項目記載内容及び添付フォーマットを以下に示す。ただし、鳥瞰図の添付を省略した範囲については、同様の理由で添付を省略する。</p>	<p>< 柏崎刈羽 7 号機との比較 ></p> <p>・評価内容の差異(女川 2 号機は供用状態 A 及び B (運転状態 I 及び II) の計算も実施する。)</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																				
		<p>a. 設計条件 鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管名称で区分し、管名称と対応する評価点番号を示す。</p> <p>鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 687 1935 868"> <thead> <tr> <th>管名称</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (°C)</th> <th>外径 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 922 1935 1026"> <thead> <tr> <th>管名称</th> <th>対応する評価点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <p>配管の質量（付加質量含む）</p> <p>鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 1123 1935 1257"> <thead> <tr> <th>評価点</th> <th>質量(kg)</th> <th>評価点</th> <th>質量(kg)</th> <th>評価点</th> <th>質量(kg)</th> <th>評価点</th> <th>質量(kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table>	管名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料																			管名称	対応する評価点			評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)																																	<p>・表現上の差異</p> <p>・表現上の差異 （女川2号機はクラス1管の強度計算書に記載する計算条件（配管等の質量、弁部の寸法、支持点及び貫通部ばね定数）のフォーマット例を記載する。）</p>
管名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料																																																																		
管名称	対応する評価点																																																																						
評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）

緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

黄色：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																			
		<p>弁部の質量を下表に示す。 鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 306 1565 443"><thead><tr><th>評価点</th><th>質量(kg)</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>弁部の寸法を下表に示す。</p> <table border="1" data-bbox="1330 510 1901 647"><thead><tr><th>弁No</th><th>評価点</th><th>外径(mm)</th><th>厚さ(mm)</th><th>長さ(mm)</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>支持点及び貫通部ばね定数 鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 753 1935 855"><thead><tr><th rowspan="2">支持点番号</th><th colspan="3">各軸方向ばね定数(N/mm)</th><th colspan="3">各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)</th></tr><tr><th>X</th><th>Y</th><th>Z</th><th>X</th><th>Y</th><th>Z</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>**印は斜め拘束を示しばね定数をXに示す。下段は方向余弦を示す。</p> <p>b. 材料及び許容応力</p> <table border="1" data-bbox="1330 995 1935 1152"><thead><tr><th rowspan="2">材料</th><th rowspan="2">最高使用温度(℃)</th><th colspan="4">許容応力 (MPa) *</th></tr><tr><th>S_m</th><th>S_T</th><th>S_u</th><th>S_H</th></tr></thead><tbody><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> <p>注記 *：評価に使用しない許容応力については欄を設けない。</p>	評価点	質量(kg)							弁No	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)																支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)			X	Y	Z	X	Y	Z															材料	最高使用温度(℃)	許容応力 (MPa) *				S _m	S _T	S _u	S _H																			<p>・表現上の差異 (女川2号機はクラス1管の強度計算書に記載する計算条件(配管等の質量, 弁部の寸法, 支持点及び貫通部ばね定数)のフォーマット例を記載する。)</p>
評価点	質量(kg)																																																																																					
弁No	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)																																																																																		
支持点番号	各軸方向ばね定数(N/mm)			各軸回り回転ばね定数(N・mm/rad)																																																																																		
	X	Y	Z	X	Y	Z																																																																																
材料	最高使用温度(℃)	許容応力 (MPa) *																																																																																				
		S _m	S _T	S _u	S _H																																																																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 [黄色]：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																
		<p>(4) 評価結果</p> <p>工事計画記載範囲の管の各応力区分における最大発生応力の評価点の評価結果を示した表を解析モデル単位に添付する。解析モデルは各応力区分における裕度最小モデルを添付する。添付フォーマットを以下に示す。</p> <p>a. 告示第501号 第46条から第48条による評価結果 鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1330 683 1939 1166"> <thead> <tr> <th rowspan="2">識別 状態</th> <th rowspan="2">最大 応力 評価点</th> <th rowspan="2">配管 要素 名称</th> <th rowspan="2">最大 応力 区分</th> <th colspan="2">一次応力評価 値⁽¹⁾</th> <th colspan="3">一次+二次応力評価 値⁽²⁾</th> <th rowspan="2">疲労評価 係数</th> </tr> <tr> <th>一次 応力</th> <th>許容 応力</th> <th>一次 + 二次 応力</th> <th>熱膨張 応力</th> <th>熱を 除いた 一次 + 二次 応力</th> <th>許容 応力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>S_{lim}</td> <td>$1.8 \cdot S_u$ $2.25 \cdot S_u$ $3 \cdot S_u$</td> <td>S_u</td> <td>S_u</td> <td>S_u</td> <td>$3 \cdot S_u$</td> <td>U</td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td></td> <td></td> <td>$S_{lim} (1)$</td> <td>MAX</td> <td>$1.8 \cdot S_u$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td></td> <td></td> <td>S_u</td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td></td> <td>$3 \cdot S_u$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td></td> <td></td> <td>S_u</td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td></td> <td>$3 \cdot S_u$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td></td> <td></td> <td>S_u</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td>$3 \cdot S_u$</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(I, II)</td> <td></td> <td></td> <td>U</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td></td> <td></td> <td>$S_{lim} (2)$</td> <td>MAX</td> <td>$2.25 \cdot S_u$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IV</td> <td></td> <td></td> <td>$S_{lim} (3)$</td> <td>MAX</td> <td>$3 \cdot S_u$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	識別 状態	最大 応力 評価点	配管 要素 名称	最大 応力 区分	一次応力評価 値 ⁽¹⁾		一次+二次応力評価 値 ⁽²⁾			疲労評価 係数	一次 応力	許容 応力	一次 + 二次 応力	熱膨張 応力	熱を 除いた 一次 + 二次 応力	許容 応力				S_{lim}	$1.8 \cdot S_u$ $2.25 \cdot S_u$ $3 \cdot S_u$	S_u	S_u	S_u	$3 \cdot S_u$	U	(I, II)			$S_{lim} (1)$	MAX	$1.8 \cdot S_u$					(I, II)			S_u			MAX		$3 \cdot S_u$		(I, II)			S_u			MAX		$3 \cdot S_u$		(I, II)			S_u				MAX	$3 \cdot S_u$		(I, II)			U						MAX	III			$S_{lim} (2)$	MAX	$2.25 \cdot S_u$					IV			$S_{lim} (3)$	MAX	$3 \cdot S_u$					<p>・ 施設時の適用規格の差異（女川2号機では告示第501号を適用するため、告示条文に基づくフォーマット例を記載する。）</p>
識別 状態	最大 応力 評価点	配管 要素 名称					最大 応力 区分	一次応力評価 値 ⁽¹⁾		一次+二次応力評価 値 ⁽²⁾			疲労評価 係数																																																																																						
			一次 応力	許容 応力	一次 + 二次 応力	熱膨張 応力		熱を 除いた 一次 + 二次 応力	許容 応力																																																																																										
			S_{lim}	$1.8 \cdot S_u$ $2.25 \cdot S_u$ $3 \cdot S_u$	S_u	S_u	S_u	$3 \cdot S_u$	U																																																																																										
(I, II)			$S_{lim} (1)$	MAX	$1.8 \cdot S_u$																																																																																														
(I, II)			S_u			MAX		$3 \cdot S_u$																																																																																											
(I, II)			S_u			MAX		$3 \cdot S_u$																																																																																											
(I, II)			S_u				MAX	$3 \cdot S_u$																																																																																											
(I, II)			U						MAX																																																																																										
III			$S_{lim} (2)$	MAX	$2.25 \cdot S_u$																																																																																														
IV			$S_{lim} (3)$	MAX	$3 \cdot S_u$																																																																																														

赤字：設備、運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》 柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																																											
		<p>b. 設計・建設規格 PPB-3500 による評価結果 鳥瞰図番号</p> <table border="1" data-bbox="1361 555 1917 992"> <thead> <tr> <th rowspan="2">使用状態</th> <th rowspan="2">最大電力評価点</th> <th rowspan="2">配置等仕様</th> <th rowspan="2">最大電力区分</th> <th colspan="2">一次電力評価 (MW)</th> <th colspan="3">一次+二次電力評価 (MW)</th> <th colspan="2">熱電力評価 (℃)</th> <th rowspan="2">管径評価</th> </tr> <tr> <th>一次電力</th> <th>評価電力 $1.8 \cdot S_{100}$ $\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$ $\text{Min}(S_{100}, S_{100})$</th> <th>一次+二次電力</th> <th>評価電力 S_{100}</th> <th>熱化率 一次+二次電力</th> <th>最高熱化率 の 評価電力</th> <th>管径 評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>S₁₀₀ (1)</td> <td>MAX</td> <td>$1.8 \cdot S_{100}$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>S₁₀₀</td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3・S₁₀₀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>K₁₀₀</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td></td> <td></td> <td>3・K₁₀₀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>S₁₀₀'</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td></td> <td>3・S₁₀₀</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr style="border: 2px solid green;"> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>ΔT</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> <td>*</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(a, B)</td> <td></td> <td></td> <td>U</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>MAX</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td>S₁₀₀ (2)</td> <td>MAX</td> <td>$\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td></td> <td></td> <td>S₁₀₀ (3)</td> <td>MAX</td> <td>$\text{Max}(S_{100}, 2 \cdot S_{100})$</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：本書2.2.2.2(2) i.(g)に基づき計算した値 $(1.4 \cdot \gamma \cdot S_{100} / (E \cdot \alpha) \cdot C_1)$ を記載する。</p>	使用状態	最大電力評価点	配置等仕様	最大電力区分	一次電力評価 (MW)		一次+二次電力評価 (MW)			熱電力評価 (℃)		管径評価	一次電力	評価電力 $1.8 \cdot S_{100}$ $\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$ $\text{Min}(S_{100}, S_{100})$	一次+二次電力	評価電力 S_{100}	熱化率 一次+二次電力	最高熱化率 の 評価電力	管径 評価	(a, B)			S ₁₀₀ (1)	MAX	$1.8 \cdot S_{100}$								(a, B)			S ₁₀₀			MAX				3・S ₁₀₀			(a, B)			K ₁₀₀				MAX			3・K ₁₀₀			(a, B)			S ₁₀₀ '					MAX		3・S ₁₀₀			(a, B)			ΔT							MAX	*		(a, B)			U									MAX	C			S ₁₀₀ (2)	MAX	$\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$								D			S ₁₀₀ (3)	MAX	$\text{Max}(S_{100}, 2 \cdot S_{100})$								<p>・構成及び表現上の差異</p> <p>・記載の適正化 (女川2号機では管の内外面の温度差の変動範囲ΔTに係るフォーマット例を記載する。)</p>
使用状態	最大電力評価点	配置等仕様					最大電力区分	一次電力評価 (MW)		一次+二次電力評価 (MW)			熱電力評価 (℃)		管径評価																																																																																																															
			一次電力	評価電力 $1.8 \cdot S_{100}$ $\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$ $\text{Min}(S_{100}, S_{100})$	一次+二次電力	評価電力 S_{100}		熱化率 一次+二次電力	最高熱化率 の 評価電力	管径 評価																																																																																																																				
(a, B)			S ₁₀₀ (1)	MAX	$1.8 \cdot S_{100}$																																																																																																																									
(a, B)			S ₁₀₀			MAX				3・S ₁₀₀																																																																																																																				
(a, B)			K ₁₀₀				MAX			3・K ₁₀₀																																																																																																																				
(a, B)			S ₁₀₀ '					MAX		3・S ₁₀₀																																																																																																																				
(a, B)			ΔT							MAX	*																																																																																																																			
(a, B)			U									MAX																																																																																																																		
C			S ₁₀₀ (2)	MAX	$\text{Max}(2.2 \cdot S_{100}, 1.8 \cdot S_{100})$																																																																																																																									
D			S ₁₀₀ (3)	MAX	$\text{Max}(S_{100}, 2 \cdot S_{100})$																																																																																																																									

赤字：設備，運用又は体制の相違点（設計方針の相違）
 緑字：記載表現，設備名称の相違（実質的な相違なし）
 ■■■■■：前回提出時からの変更箇所

先行審査プラントの記載との比較表（VI-3-2-2 クラス1管の強度計算方法）

《参考》柏崎刈羽原子力発電所第7号機(2020/10/9版)	東海第二発電所	女川原子力発電所第2号機	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		<p>(5) 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果</p> <p>代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類毎に裕度最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。このため、下表の代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を記載する。</p> <p>代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(クラス1範囲 運転状態Ⅰ, Ⅱ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">配管モデル</th> <th colspan="4">運転状態Ⅰ,Ⅱ</th> <th colspan="4">運転状態Ⅲ,Ⅳ</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>■■■-1</td> <td>1</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>11</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>■■■-2</td> <td>2</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>12</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>■■■-3</td> <td>3</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>13</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>■■■-4</td> <td>4</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>14</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>■■■-5</td> <td>5</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>15</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>■■■-6</td> <td>6</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>16</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> </tbody> </table> <p>代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(クラス1範囲 運転状態Ⅲ,Ⅳ)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">配管モデル</th> <th colspan="4">運転状態Ⅲ</th> <th colspan="4">運転状態Ⅳ</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>■■■-1</td> <td>23</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>29</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>■■■-2</td> <td>24</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>30</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>■■■-3</td> <td>25</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>31</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>■■■-4</td> <td>26</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>32</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>■■■-5</td> <td>27</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>33</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>■■■-6</td> <td>28</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>34</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> </tbody> </table> <p>代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(クラス1範囲 供用状態A, B)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">配管モデル</th> <th colspan="4">供用状態(A, B)</th> <th colspan="4">供用状態(C, D)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>■■■-1</td> <td>1</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>11</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>■■■-2</td> <td>2</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>12</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>■■■-3</td> <td>3</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>13</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>■■■-4</td> <td>4</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>14</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>■■■-5</td> <td>5</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>15</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>■■■-6</td> <td>6</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>16</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> </tbody> </table> <p>代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(クラス1範囲 供用状態C, D)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">No</th> <th rowspan="2">配管モデル</th> <th colspan="4">供用状態C</th> <th colspan="4">供用状態D</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> <th colspan="2">一次応力(種+値付)</th> <th colspan="2">一次+二次応力(S)</th> </tr> <tr> <th></th> <th></th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> <th>評価点</th> <th>許容応力 [MPa]</th> <th>裕度</th> <th>代表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>■■■-1</td> <td>23</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>29</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>■■■-2</td> <td>24</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>30</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>■■■-3</td> <td>25</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>31</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>■■■-4</td> <td>26</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>32</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>■■■-5</td> <td>27</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>33</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>■■■-6</td> <td>28</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>34</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> <td>■■■</td> </tr> </tbody> </table>	No	配管モデル	運転状態Ⅰ,Ⅱ				運転状態Ⅲ,Ⅳ				一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)				評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	1	■■■-1	1	■■■	■■■	■■■	11	■■■	■■■	■■■	2	■■■-2	2	■■■	■■■	■■■	12	■■■	■■■	■■■	3	■■■-3	3	■■■	■■■	■■■	13	■■■	■■■	■■■	4	■■■-4	4	■■■	■■■	■■■	14	■■■	■■■	■■■	5	■■■-5	5	■■■	■■■	■■■	15	■■■	■■■	■■■	6	■■■-6	6	■■■	■■■	■■■	16	■■■	■■■	■■■	No	配管モデル	運転状態Ⅲ				運転状態Ⅳ				一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)				評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	1	■■■-1	23	■■■	■■■	■■■	29	■■■	■■■	■■■	2	■■■-2	24	■■■	■■■	■■■	30	■■■	■■■	■■■	3	■■■-3	25	■■■	■■■	■■■	31	■■■	■■■	■■■	4	■■■-4	26	■■■	■■■	■■■	32	■■■	■■■	■■■	5	■■■-5	27	■■■	■■■	■■■	33	■■■	■■■	■■■	6	■■■-6	28	■■■	■■■	■■■	34	■■■	■■■	■■■	No	配管モデル	供用状態(A, B)				供用状態(C, D)				一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)				評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	1	■■■-1	1	■■■	■■■	■■■	11	■■■	■■■	■■■	2	■■■-2	2	■■■	■■■	■■■	12	■■■	■■■	■■■	3	■■■-3	3	■■■	■■■	■■■	13	■■■	■■■	■■■	4	■■■-4	4	■■■	■■■	■■■	14	■■■	■■■	■■■	5	■■■-5	5	■■■	■■■	■■■	15	■■■	■■■	■■■	6	■■■-6	6	■■■	■■■	■■■	16	■■■	■■■	■■■	No	配管モデル	供用状態C				供用状態D				一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)				評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	1	■■■-1	23	■■■	■■■	■■■	29	■■■	■■■	■■■	2	■■■-2	24	■■■	■■■	■■■	30	■■■	■■■	■■■	3	■■■-3	25	■■■	■■■	■■■	31	■■■	■■■	■■■	4	■■■-4	26	■■■	■■■	■■■	32	■■■	■■■	■■■	5	■■■-5	27	■■■	■■■	■■■	33	■■■	■■■	■■■	6	■■■-6	28	■■■	■■■	■■■	34	■■■	■■■	■■■	<p>・ 施設時の適用規格の差異(女川2号機では告示第501号を適用するため、告示条文中に基づくフォーマット例を記載する。)</p>
No	配管モデル	運転状態Ⅰ,Ⅱ				運転状態Ⅲ,Ⅳ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	■■■-1	1	■■■	■■■	■■■	11	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2	■■■-2	2	■■■	■■■	■■■	12	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
3	■■■-3	3	■■■	■■■	■■■	13	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4	■■■-4	4	■■■	■■■	■■■	14	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
5	■■■-5	5	■■■	■■■	■■■	15	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
6	■■■-6	6	■■■	■■■	■■■	16	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
No	配管モデル	運転状態Ⅲ				運転状態Ⅳ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	■■■-1	23	■■■	■■■	■■■	29	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2	■■■-2	24	■■■	■■■	■■■	30	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
3	■■■-3	25	■■■	■■■	■■■	31	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4	■■■-4	26	■■■	■■■	■■■	32	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
5	■■■-5	27	■■■	■■■	■■■	33	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
6	■■■-6	28	■■■	■■■	■■■	34	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
No	配管モデル	供用状態(A, B)				供用状態(C, D)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	■■■-1	1	■■■	■■■	■■■	11	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2	■■■-2	2	■■■	■■■	■■■	12	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
3	■■■-3	3	■■■	■■■	■■■	13	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4	■■■-4	4	■■■	■■■	■■■	14	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
5	■■■-5	5	■■■	■■■	■■■	15	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
6	■■■-6	6	■■■	■■■	■■■	16	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
No	配管モデル	供用状態C				供用状態D																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)		一次応力(種+値付)		一次+二次応力(S)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
		評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表	評価点	許容応力 [MPa]	裕度	代表																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
1	■■■-1	23	■■■	■■■	■■■	29	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
2	■■■-2	24	■■■	■■■	■■■	30	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
3	■■■-3	25	■■■	■■■	■■■	31	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
4	■■■-4	26	■■■	■■■	■■■	32	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
5	■■■-5	27	■■■	■■■	■■■	33	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
6	■■■-6	28	■■■	■■■	■■■	34	■■■	■■■	■■■																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										